

こども防災キャンプ～もしも災害にあったなら～

令和4年3月12日(土)～13日(日)

【目的】

災害の状況を想定した活動を体験することを通して、災害に備える意欲を高め、防災についての知識、技能を得るとともに、自ら考え、判断しながら他者と支え合って課題を乗り越える力を養う。

【参加者】小学5年生～6年生 15名

【プログラムの内容】

1日目

10:45 はじめの会
11:00 アイスブレイク
13:00 被災シミュレーション①
14:00 被災シミュレーション②

2日目

15:45 被災シミュレーション③
18:30 被災シミュレーション④
20:30 ふりかえり
21:30 就寝
9:00 被災シミュレーション⑤
10:30 ふりかえり
11:15 おわりの会

被災シミュレーション① 防災×知る



11年前に発生した東日本大震災の被害状況や被災者の生活について学んだ。また、災害時にどんな物品が必要になるかグループで順位付けを行い、実際に東日本大震災に被災された方が必要だと感じた物品の順位と比較し、防災に関して知る活動を行った。

被災シミュレーション② 防災×備える



キャンプで使用する物品を防災バックとして配布し、キャンプ後も家で備える防災バックとして活用させた。ジャム瓶を活用したキャンドルを作成し、災害時に使用できる備えとして、防災バックに追加した。また、キャンドルはライフラインが遮断された夜の活動で使用した。

被災シミュレーション③ 防災×体験する



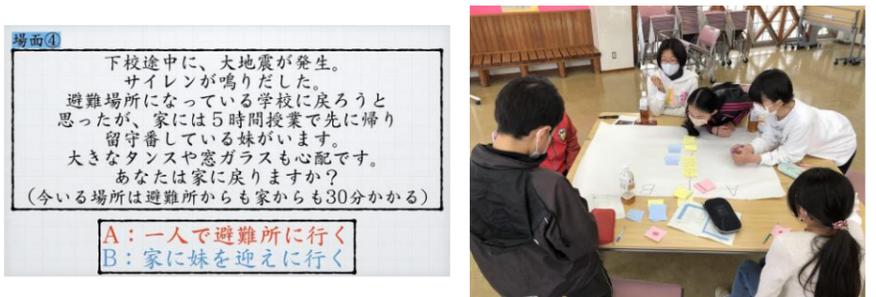
災害時の生活を体験するために、この時間から水道、電気の使用をストップしライフラインが遮断されたときの困難さを体験した。また、段ボールや寝袋、マットなどの物品を使用して避難所を開設した。どうすれば、快適に過ごせるかを模索し、協力しながらパーティーションづくりを行っている様子が見られた。

被災シミュレーション④ 防災×体験する



電気、水道が使えない状態で食事作りを行った。夕食は固形燃料を使用してメスティンで米を炊き、缶詰のカレーを温めて食べた。朝食は缶詰のパンと湯を沸かしてスープを作って食べた。洗い物を少なくするために、クッキングシートなどを活用して調理を行った。

被災シミュレーション⑤ 防災×考える



災害はいつ起こるか分からないため、素早い決断と行動が必要になることを確認した。ある場面を想定し、災害が起きた状況で自分がどのような行動をとるか考え、グループで意見交流を行った。家族と災害時の行動について事前に決めておくことなど日ごろから、備えておくことの大切さを学んだ。

【参加者の声】

- ・「水や電気の大切さを学んだ」
- ・「いろいろと学んだあとに体験することができてよかった」
- ・「防災についてくわしく考えることのできる良い機会だった」

【成果】

キャンプの活動について「満足」が93%「やや満足」が7%であった。アウトドアグッズを活用した防災バックを配布し活用することで体験的に防災についての学びを提供することができた。また、使用した物品を防災バックとして持ち帰らせることによって実生活でも災害に備える意識を持つように活動を仕組むことができた。

【課題】

体験を通して必要な備蓄品を知ったり、自分の身を守るための技能などを習得したりして、「自助」については学びを深めることができたが、実際に被災した場合には周りを見渡して、互いを支えあう「互助」の考え方も必要である。キャンプに参加した15名が主体的に避難所の運営を行い、互いに助け合う大切さについても体験的に学ばせる機会があればもっとよりよいものとなった。